



# 日本植物病理学会ニュース 第45号

(2009年2月)

## 【今後の学会活動予定】

### 1. 平成21年度大会開催予定

日 時：平成21年3月26日(木)～28日(土)  
 場 所：①総会場：山形県生涯学習センター(遊学館)  
 (山形県山形市緑町1-2-36, Tel: 023-625-6411)  
 ②口頭発表・ポスターセッション・課題別シン  
 ポジウム・市民シンポジウム会場：山形大学小  
 白川キャンパス  
 (山形県山形市小白川町1-4-12, Tel: 023-628-4006)  
 大会HPサイト：<http://www.knt.co.jp/ec/2009/syukubutu/>  
 連絡先：山形大学農学部生物生産学科植物病理学研究室  
 内 平成21年度日本植物病理学会大会事務局  
 (〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23)  
 長谷 修 E-mail: s.hase@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp  
 Tel/Fax: 0235-28-2842  
 生井恒雄 E-mail: tnamai@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp  
 Tel/Fax: 0235-28-2849

### 2. 平成21年度部会開催予定

#### (1) 北海道部会

日 時：平成21年10月15日(木)～16日(金)  
 場 所：北海道大学  
 札幌市北区北8条西5丁目  
 連絡先：農研機構北海道農業研究センター 真岡哲夫  
 E-mail: maokat@affrc.go.jp

#### (2) 東北部会

日 時：平成21年9月下旬  
 場 所：宮城大学食産業学部, 多目的ホール  
 連絡先：宮城大学食産業学部・ファームビジネス学科  
 植物病理学研究室 本藏良三  
 〒982-0215 仙台市太白区旗立2-2-1  
 E-mail: honkura@myu.ac.jp  
 Tel: 022-245-1214 (研究室直通)

#### (3) 関東部会

日 時：平成21年9月中旬  
 場 所：日本大学生物資源科学部六会キャンパス  
 〒252-8510 藤沢市亀井野1866  
 連絡先：日本大学生物資源科学部植物資源科学科植物病  
 理学研究室 前田孚憲・井村善之  
 E-mail: imura@brs.nihon-u.ac.jp  
 Tel&Fax (直通): 0466-84-3517

#### (4) 関西部会

日 時：平成21年10月17日(土)～18日(日)  
 場 所：神戸大学  
 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1  
 連絡先：神戸大学大学院農学研究科 土佐幸雄  
 E-mail: tosayuki@kobe-u.ac.jp  
 Tel&Fax: 078-803-6540

#### (5) 九州部会

日 時：平成21年11月10日(火)  
 場 所：グランデはがくれ(公立学校共済組合佐賀宿泊所)  
 〒840-0815 佐賀市天神2丁目1番36号  
 Tel: 0952-25-2212 Fax: 0952-24-2727  
 連絡先：鹿児島大学農学部 岩井 久  
 E-mail: topcrop@agri.kagoshima-u.ac.jp  
 Tel: 099-285-8681

### 3. 談話会・研究会等の開催予定

#### (1) EBC (Evidence-based Control) 研究会ワークショップ 2009

日 時：平成21年3月25日(水) 13:00～18:00  
 場 所：山形大学小白川キャンパス教養教育棟2号館  
 222教室  
 連絡先：東京農業大学農学部植物病理研究室 根岸寛光  
 E-mail: negishi@nodai.ac.jp

#### (2) 技術士(農業・植物保護)の試験対策セミナー

日 時：平成21年3月27日(金) 13:00～14:30

- 場 所：山形大学小白川キャンパス教養教育棟1号館  
122教室  
連絡先：農研機構花き研究所 築尾嘉章  
E-mail: chikuo@affrc.go.jp
- (3) 第10回植物病原菌類談話会  
日 時：平成21年3月28日(土) 18:00~21:00  
場 所：山形大学小白川キャンパス教養教育棟2号館  
222教室  
連絡先：岐阜大学流域圏科学研究センター 景山幸二  
E-mail: kageyama@gifu-u.ac.jp  
Tel: 058-293-2063
- (4) 第11回バイオコントロール研究会  
日 時：平成21年3月29日(日) 9:00~15:40  
場 所：山形大学小白川キャンパス教養教育棟2号館  
221教室  
連絡先：山形大学農学部生物生産学科植物病理学研究室  
長谷 修  
E-mail: s.hase@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp  
Tel/Fax: 0235-28-2842
- (5) 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム  
日 時：平成21年3月29日(日) 9:00~16:00  
場 所：山形大学小白川キャンパス教養教育棟2号館  
222教室  
連絡先：JA全農肥料農薬部大阪肥料農薬事業所  
宗 和弘  
〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満1-2-5  
E-mail: sou-kazuhiro@zennoh.or.jp  
Tel: 06-6316-2186 Fax: 06-6314-3184
- それぞれのシンポジウム、会議等の詳細は本会ホームページをご参照ください。開催予定も随時更新してゆきます。
- 【共催・その他】**
- (1) 第62回北日本病虫害研究会  
日 時：平成21年2月17日(火) 9:00~18日(水) 11:00  
場 所：北海道大学学術交流会館  
(〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)  
Tel: 011-706-2042 Fax: 011-706-4884  
連絡先：北海道立中央農業試験場  
(〒069-1395 夕張郡長沼町東6線北15号)  
Tel: 0123-89-2001 内線 322, 329 Fax: 0123-89-2060
- (2) 第56回関東山病虫害研究会  
日 時：平成21年2月27日(金) 10:00~16:30  
場 所：立川市民会館  
(〒190-0022 東京都立川市錦町3-3-20)  
Tel: 042-526-1311  
連絡先：東京都農林総合研究センター生産環境科病虫害管理研究室  
〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1  
Tel: 042-528-0520 Fax: 042-523-4285  
E-mail: kouji-takeuchi@tdfaff.com
- (3) 第91回関西病虫害研究会  
日 時：平成21年5月22日(金) 9:30~17:00  
場 所：兵庫県中央労働センター  
(〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28)  
Tel: 078-341-2271 Fax: 078-341-7332  
連絡先：農研機構野菜茶業研究所野菜IPM研究チーム  
(〒514-2392 三重県津市安濃町草生360)  
Tel: 059-268-4644 Fax: 059-268-1339
- (4) 第61回北陸病虫害研究会  
日 時：平成21年2月12日(木) 13:00~2月13日(金) 12:30  
場 所：石川県教育会館 3Fホール  
(石川県金沢市香林坊1-2-40)  
Tel: 076-222-1241  
連絡先：石川県農業総合研究センター資源加工研究部生物資源グループ 塚本昇市  
〒920-3198 金沢市才田町戊295-1  
Tel: 076-257-6911, Fax: 076-257-6844  
E-mail: s-tuka@pref.ishikawa.lg.jp
- (5) 第54回四国植物防疫研究協議会  
日 時：未定  
場 所：高松市内  
連絡先：農研機構近畿中国四国農業研究センター  
石川浩一  
Tel: 0877-63-8130
- (6) 第77回九州病虫害研究会春季発表会  
日 時：平成21年2月4日(水) 9:00~17:00  
場 所：KKRホテル熊本(〒860-0001 熊本県千葉城町3-31) Tel: 96-355-0121  
連絡先：農研機構九州沖縄農業研究センター暖地施設野菜花き研究チーム 大貫正俊  
〒861-1192 熊本県合志市須屋2421  
E-mail: onukim@affrc.go.jp
- (7) 10th International Verticillium Symposium  
日 時：平成21年9月14日~9月19日  
場 所：帯広畜産大学  
連絡先：帯広畜産大学環境微生物学研究室 小池正徳

E-mail: koike@obihiro.ac.jp

(8) 第2回環境保全型農業シンポジウム「IPMの実践と微生物防除剤」

日 時：平成21年3月3日（火）10:30～17:15

場 所：江戸東京博物館 1F 大ホール 東京都墨田区横網 1-4-1

連絡先：日本微生物防除剤協議会事務局

E-mail: support@biseibutsu.jp

Tel: 03-3829-1466 Fax: 03-3829-1463

【本学会活動状況】

1. 部会開催報告

(1) 九州部会

平成20年度の九州部会は11月5日、6日の2日間において、セントヒル長崎（長崎市）で開催され、参加者は約100名であった。九州部会は九州病害虫研究会との共催で開かれた。講演数は27題で、内訳はウイルス・ウイロイド関係8題、菌類病関係12題、細菌病関係7題で熱心な討論が行われた。昼食時に開催された幹事会で役員交代、次年度の開催計画等が審議された。その結果、新部会長に鹿児島大学農学部の岩井久氏が選出された。また、平成21年度の部会は佐賀県で開催されることとなった。これら幹事会での審議はその後に開催された総会にて報告、了承された。2日目には第33回九州部会シンポジウムが開催され、琉球大学農学部の田場聡氏による「サツマイモネコブセンチュウの物理的、耕種的および生物的防除に関する研究」、九州大学大学院農学研究院の土屋健一氏による「日本および東南アジアにおける青枯病菌の多様性」、ならびに国際農林水産業研究センターの大藤泰雄氏による「コムギ縮萎病の発生生態と防除について」の3つの話題提供があり、活発な議論が行われた。（草場基章）

(2) 東北部会

平成20年度東北部会は、9月25日、26日の両日にわたり、岩手大学総合教育研究棟を会場に77名の参加者で開催された。開催地幹事 磯貝雅道氏を中心に、関係各氏のご協力によって部会運営は極めてスムーズに進行し、活発な質疑応答が行われた。講演数は22題で、内訳はウイルス・ウイロイド病10題、糸状菌病10題、その他2題であった。25日の講演終了後には盛岡駅前のホテルルイズに場所を移し、懇親会が盛大に行われた。

東北部会では昨年度から、東北農業の発展に貢献した部会会員を表彰する目的で東北部会「地域貢献賞」を設立し、部会幹事会において最終選考を行っている。本年5月から部会長および部会幹事を中心に選考を進め、25日に開催

された幹事会において最終候補者2名につき業績概要説明および投票を行い、平成20年度（第2回）「地域貢献賞」は、山形県農林水産部 早坂剛氏および山形大学農学部 生井恒雄氏の「イネ種子伝染性病害を対象とした温湯種子消毒技術の開発」に決定した。26日の総会において授与式を執り行い、賞状および記念品を授与した。

平成21年度の東北部会長選挙の結果、次期部会長には弘前大学農学生命科学部佐野輝男氏を選出された。また、平成21年度の東北部会開催は、宮城大学（開催地幹事 本藏良三氏）が担当することが承認された。これらの協議事項以外に、1) 平成21年度日本植物病理学会全国大会の運営について、2) 植物病害診断研究会の開催時期、3) 東北部会参加者数および講演数の推移等について幹事会で協議した。

（吉川信幸）

(3) 北海道部会

平成20年度北海道部会は10月16日、17日の2日間において、札幌市の北海道農業研究センターで開催された。参加者は85名であった。本年度は部会創立40周年を迎



北海道大学 上田一郎氏による講演



北海道農業研究センター 松本直幸氏による講演

え、また、部会活動の中心として精力的に行われてきた談話会が200回突破を記念した年でもある。これを受けて、10月16日に2名の演者による特別記念講演を行った。北海道大学大学院 上田一郎氏が「植物学教室と北海道部会の歩み」と題して、植物学教室に在籍した学生により代々書き継がれてきた学生日誌をもとにした北海道大学と北海道部会との接点を紹介して、卒業生の写真紹介など懐かしい一コマもあった。北海道農業研究センター 松本直幸氏は「カビの種内社会：一匹一匹を区別して見えるもの」と題して、対峙培養により境界線を生じない菌株を個体としてながめ、それらがフィールドにおいて競合、優先する現象およびウイルス感染による衰退現象を数種の病原菌の事例で示した。

引き続き、第208回談話会が開催され、「北海道における重要農作物の病害虫研究最前線」というテーマで、北海道農業研究センター 奈良部 孝氏による「北海道におけるジャガイモシストセンチュウ発生の現状と防除技術の開発」、北海道立中央農業試験場 相馬 潤氏による「北海道におけるコムギ赤かび病とデオキシニバレノール汚染対策」、同試験場 新村昭憲氏による「北海道におけるタマネギ白斑葉枯病の効率的防除対策」の講演が行われた。いずれも今話題の病害虫であることから、活発な質疑応答が行われた。同日に部会創立40周年・談話会200回突破記



懇親会の風景

念を祝し、盛大に懇親会が開かれた。

17日は研究発表会および総会が開催された。講演はウイルス・ウイロイド病関係が8題、細菌病が2題、糸状菌病が12題の計22題で、活発な質疑応答が行われた。総会では庶務報告・会計報告が承認されたほか、次期部会長に北海道農業研究センター 松本直幸氏が選出された。

また、部会創立40周年・談話会200回突破を記念して特別号を発行した。本号には歴代部会長、北海道部会研究発表会の記録、談話会200回の記録、関連部会等の開催記録、学会賞・学術奨励賞受賞者などをまとめたほか、部会に関

わる思い出として10名の先輩方から玉稿を頂いた。特別号の余部が残っているので、希望される方はご一報を。

(堀田治邦)

## 【研究会開催報告】

### (1) 第24回土壌伝染病談話会報告

第24回土壌伝染病談話会は、残暑厳しい平成20年9月10日から12日にかけて、高知大学農学部にて開催された。高知大学大学院総合人間自然科学研究科農学専攻の学生にも開放したこともあり、のべ97名の参加者であった。9月10日午後1時から、まず、第一部として、宍戸雅宏氏(千葉大学)に座長をお願いし、「診断から防除まで、基礎と応用」をテーマに、堀江博道氏(東京大学)に「植物病害診断の意義、そして「植物医師」の育成と連携に向けて」、土屋健一氏(九州大学)に「セパシア菌：農業環境における多様性と機能を探る」、有江 力(東京農工大学)に「*Fusarium oxysporum*における病原性の多様性」および柘植尚志氏(名古屋大学)に「*Fusarium oxysporum*の病原性」をご講演いただいた。このセクションはとくに好評を博し、談話会終了後に講演要旨集(土壌伝染病談話会レポート)の注文が数多くあり、品切れになったところ、このセクションだけのコピーを譲って頂きたいとの注文が寄せられた。

夕刻からは、第2部として、「土壌伝染病の語らい」をテーマにウエルカムパーティーをかねて、ホテル海辺の果樹園のプールサイドでビアパーティー(ホテルでつくっている地ビール)を催した。本会場は、植物感染生理談話会と植物細菌病談話会の懇親会でも使用しており、加藤肇氏、九州大学の土屋氏やサカタのタネの加来久敏氏は、3回目の地ビールであったが、ひじょうに喜んで頂いた。ホテルも驚くビールの消費量であり、高知在住の主催者としてうれしかぎりであった。

9月11日の午前中には、第3部として、座長を相野公孝氏(兵庫県農林水産技術総合センター)をお願いし、「土壌病害と土壌微生物」をテーマに、藤原俊六郎氏(明治大学)に「堆肥の熟成過程および土壌中における分解と微生物」、田中壮太氏(高知大学)に「土壌消毒による土壌環境・微生物性への影響」、百町満朗氏(岐阜大学)に「植物生育促進菌類による生物防除のメカニズム研究」および竹原利明氏(近畿中国四国農業研究センター)に「生物的土壌消毒による土壌病害の防除」をご講演いただいた。「餅は餅屋」の格言にあるように、木嶋利男氏(微生物応用技術研究所)の適切なお質問と有益なお示唆を皮切りに、積極的な総合討論がなされた。

午後には、第4部として、高知市東部、南国市および香南市にある現地圃場見学会を行った。まず、高知市花卉園

芸農業協同組合代表理事組合長 横田 健さんと高知県中央西農業振興センター普及指導員 藤本友紀さんの紹介で高知市五台山のユリ栽培圃場での蒸気土壌消毒実演を見学した。続いて、農業組合法人西島園芸団地組合長 中屋宏二さんと高知県中央東農業振興センター 野村守由さんの紹介で南国市廿枝西島園芸団地にてロックウール栽培によるメロンの土壌病害回避例の見学を行い、見学後に西島園芸団地産のスイカとメロンを試食させて頂いた。最後に、土佐香美農業協同組合園芸部ニラ部会部会長 島内 俊さんと高知県中央東農業振興センター 森田研一さんの紹介で香南市野市町にてキルパーによるニラの土壌病害防除の実演を見学した。いずれの現地も土壌消毒については確固たる実績を持っており、参加者が思いもよらなかった実用方法の紹介もして頂き、見学者から数多くの質問が出た。

最終日は、木場章範氏（高知大学）に座長をお願いし、「地域における土壌伝染病研究」をテーマに、矢野和孝氏（高知県農業技術センター）に「高知県のナス科野菜に発生する青枯病とその防除」、杉田 亘氏に（宮崎県総合農業試験場）「ピーマンにおける青枯病抵抗性 DNA マーカーの開発」、佐古 勇氏（鳥取県大山農業改良普及所）に「鳥取県の特産野菜に発生する土壌病害と防除対策」、谷名光治氏（岡山県農業総合センター農業試験場）に「岡山県の雨よけ夏秋トマトにおけるトマトかいよう病の伝染環解明への取り組み」をご講演いただいた。総合討論では、土壌病防除についての各地域の考え方について、会場からも紹介して頂き、あつい討論がなされた。

次回の談話会は大阪府立大学 東條元昭氏に開催地委員長をお願いすることとし、大阪での再会を約して閉会となった。

本談話会の企画と運営に当たって頂いた近畿中国四国農業研究センター、高知県農業技術センター、高知県環境農業推進課、日本植物防疫協会、バイエルクロップサイエンスおよび高知大学諸氏、後援頂いた NPO 法人高知サイエンスヴィレッジに感謝申し上げます。（曳地康史）

## (2) 第 2 回植物病害診断研究会

第 2 回植物病害診断研究会は、平成 20 年 9 月 17 日、神戸大学農学部で開催された。参加者は、国の試験場・植物防疫所の研究員、県の試験場の研究員・普及員、大学教員、学生のほか、さまざまな分野の企業の研究員・管理職、主婦と非常に多彩で、総勢 140 名を超え、植物病害診断への関心の強さと裾野の広さを感じさせるものであった。

まずはじめに、那須英夫氏（全農）に、「植物病害診断についての雑感」と題して基調講演をして頂いた。持ち込まれたサンプルに対して、問診・現場での「聞き込み」等

を総合しながら病原を類推し、再現実験により証拠を押さえる診断過程を、「我々の仕事は刑事に似ている」と喝破し、ご自身の研究事例を紹介された。さらに、植物病害診断の現状を総括して、問題提起と将来への提言をして頂いた。

つぎの「分類と診断」のセッションでは、大木理氏（大阪府立大学）に「植物ウイルスの分類と病原同定」という演題で、また東條元昭氏（大阪府立大学）に「ピシウム病害の診断」という演題で、ご講演頂いた。質疑の時間に、分離・同定技術に関する質問が数多く出され、講演者がそれに対してエキスパートならではの「秘伝」を紹介して応答されるなか、会場の参加者がその「秘伝」を聞き漏らすまじと熱心にノートに書き留める姿が印象的であった。

午後の最初の講演は、渡辺和彦氏（東京農業大学）による特別講演「病害と生理障害の見分け方」「病害発生への施肥の関与」であった。生育異常を来たした植物は、とにかく病気として病理学者のもとに持ち込まれる。したがって、持ち込まれた植物サンプルの診断の最初の関門は、病気（伝染病）か生理障害（非伝染病）かの判断である。本講演では、その判別のポイント、注意すべき点について詳細に解説して頂いた。参加者の感想文においても「大変勉強になった。このような講演は病理学会では聴く機会がありませんので、もっと時間をとって欲しかった」という声が多く寄せられた。

つぎの「診断手法の開発」のセッションでは、藤村 真氏（東洋大学）に「リアルタイム PCR による土壌中の *Verticillium* 菌の定量的検出」、三好孝典氏（愛媛県立果樹試験場）に「PCR を用いたイチジク株枯病菌の検出」、平山喜彦氏（奈良県農業総合センター）に「選択培地と PCR を用いたイチゴ炭疽病菌の検出」という演題でご講演頂いた。以前は特殊技術であった PCR が現場で利用できる技術として確立され、さらに不断に発展・洗練化されつつある状況をご紹介頂いた。

つぎの「診断の困難な病害に出会ったとき」は、この病害診断研究会を特徴づけるセッションである。日々の診断の中では、病原のわからない事例に出会うことも多い。誤診をする場合もある。そのような事例は、病理学会等で発表することはできない。しかし、誤診のような失敗事例のなかにこそ、実は学ぶべきものが多いはずである。そのような失敗体験を共有することができれば、全国の診断技術レベルが格段に向上するはずである。また、病原のわからないものをこのような診断のエキスパートが集う集会で発表すれば、参加者のなかに類似の症状を診断した経験を持つ人がいて、その解明へ向けて事態が急展開するかもしれない。いわば、診断困難な事例の解決へ向けて、日本全国

の診断エキスパートの知恵と経験を結集する場にもなりうる。そのような理念に基づき、近畿地方の各県の病害診断を背負っておられる中堅の3名の方、鈴木啓史氏（三重県科学技術振興センター）、神頭武嗣氏（兵庫県立農林水産技術総合センター）、岡田清嗣氏（大阪府環境農林水産総合研究所）にご講演をお願いした。いずれのご講演においても、各県の事例を失敗例を含めて軽妙な語り口でご紹介頂き、大変好評であった。

最後の「パネルディスカッション」では、難波成任氏（東京大学）に東大寄附講座・植物病院の経過と現状についてご紹介頂いたあと、病害診断に関わる問題点について議論を行った。司会の相野公孝氏（兵庫県立農林水産技術総合センター）の絶妙のリードで、積極的発言が相次ぎ、問題点を深く掘り下げて検討することができた。

1日ですべてのプログラムを完結するスタイルゆえ、遠方からの参加者には大変ご負担をかけたのではないかと思う。しかし、それにもかかわらず、北は北海道から南は沖縄まで全国からきわめて多くの方々にご参加頂いた。病害診断に対する関心の高さを改めて認識した次第である。話題提供して頂いた方々、参加して頂いた方々、ならびに本研究会の企画立案にご協力頂いた方々に心より御礼申し上げる。なお、第3回研究会は、北海道で開催される予定である。

（土佐幸雄）

#### 【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

日本植物防疫協会ビル内  
学会ニュース編集委員会

Fax: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏、寺岡 徹、築尾嘉章、竹内妙子、笹谷孝英  
各委員宛

---

#### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

学会ニュース第45号をお届けいたします。

新年にあたり会員の皆様方のご健康と研究のご発展を心から祈念いたします。学会も国際化やIF獲得など沢山の課題を抱えていますが、IF獲得も目途がつき、国際化も学会三役はじめ皆様のご努力で大きな進展があり、今年「牛」にちなんで、足元を固めてしっかりと歩み出したいものです。さて、本号では平成21年度の大会及び部会、さらに談話会・研究会、また共催で開催されるシンポジウムや会議など新年度の活動のご案内と昨年度部会や談話会・研究会の開催報告を中心に掲載しました。平成20年度も盛りだくさんの行事が企画され、盛会裏に終わっておりますが、平成21年度もそれに劣らず沢山の企画が並んでおります。どうか奮ってご参加いただきますよう、お願いいたします。学会ニュースでは上記のような内容以外にも書評、国内外の学会のニュースや学会に対するご意見なども掲載できます。どうか有益な情報提供の場としてもご利用いただきたいと思っておりますので、今年もご投稿をお待ちしています。

（加来久敏）

---